

## 自然科学と歴史・ 自然科学の歴史

マツオインターナショナル株式会社代表取締役社長  
日本アパレル・ファッション産業協会副理事長

松尾憲久



世の中には偶然の附合にびっくりすることがある。これが自然科学の中でも起こっている。私は「人は生まれ変わる」という話を信じている。輪廻転生だ。同じ魂が次の人に乗りうつるかどうか分からないが、時代の大きな流れが人に与えている影響は無視できない。

さてさて本題に。誰もが物を見て、形や匂い、重さや色、手触りなどを言葉で表現しようとする。科学者も同じだ。しかし物と物の間に引力が働いているとはそうそう誰もが思わない。目の前のリンゴ2つを見て物体が引き合っていると誰が想像できるだろうか。これを距離の二乗と質量で「引き合う」力を表現したのがニュートンだ。ニュートンはなぜこのようなことを思いついたのだろうか。ここからリンゴの木の逸話につながっていく。

1642年（ユリウス暦）生まれのニュートン。1642年（グレゴリオ暦）に亡くなったガリレオ。ガリレオ（イタリア）とケプラー（ドイツ）は文通し合い、互いの発見を共有していた。太陽と惑星の間の引力を知り、軌道も計算できていた。この太陽が地球、惑星がリンゴだったらどうなるだろう？「そうだ！」地球とリンゴの大きさが違いすぎ、地球とリンゴの距離が近すぎるので一方的に地球に引き寄せられる。しかも加速度